

授業科目名	保育実習指導 I	教員名	山下 愛実	卒業及び 免許・資格 との関係	卒業	選択
					小学校教諭	選択
科目番号	JIS201	配当年次	2年後期		幼稚園教諭	選択
					保育士	必修
授業形態	演習				こども音楽療育士	
単位数	2単位				情報処理士	
科目						
施行規則に 定める科目区分						
一般目標	保育実習の意義や目的を理解することを目的に、事前事後指導として実施する。実習に際して、事前に保育所実習や児童福祉施設実習の内容と課題を明確にする。また、実習で学ぶ上での福祉施設の意義や役割の理解、人権擁護等についての理解等、保育士に求められる倫理観や専門性などについて学ぶ。さらに、保育実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 子ども理解・計画・実践（環境構成）・観察・記録・自己評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の自己評価を行い、今後の学修や学生生活などでの自己課題や目標を明確にする。 					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、学科のディプロマポリシーに掲げる「2. 教育者としての情熱を持ち、正しい倫理観と責任感を身につけている」「3. 教育者として、持つべき十分な記述力・プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている」「4. 教育に関連する事柄について、継続的・主体的に学ぶ学習能力を身につけている」「5. 教育実践力を身につけている」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている」を育成する科目として配置している。					
授業の概要	実習に向けての事前指導として行われる授業である。今後実施されるすべての実習の基本について講義・演習を行い、保育実習における学びを深められるようにする。具体的には、「保育実習の意義」「保育実習に向けての心構え」「日誌の書き方・指導案の書き方」「実習に向けての確認事項及び諸手続き」等である。授業形態は講義をベースとしながら、アクティブラーニングとして、ディスカッション、個別の質疑応答、指導案作成・実践、小テストなどを取り入れる。					
履修条件・注意事項	「保育実習 I」を実施する前の事前指導と実施後の事後指導で構成される。現場での実習に直接関わる授業であるため、全回数出席することが望ましい。意欲的・積極的に参加し、課題の提出を徹底する等、実習を通じた学びが充実したものとなるよう準備を進められるようにする。					
授業計画	<p>第1回：実習の意義・目的 学部長講話を通して、実習の意義と目的について理解する。また、本学の実習計画について知ることによって、見通しを持って実習に取り組む姿勢を持つ。さらに、実習生としての基本的な心得（心構え、守秘義務、基本的生活習慣など）について理解し、実習に向けて見通しを持つ。（目標1, 4）</p> <p>第2回：児童福祉施設とは① 児童福祉施設についての理解を深めるため、法律での位置づけについて理解する。また、福祉とは何かについて、事例をもとに考え、理解する。目標2, 3)</p> <p>第3回：児童福祉施設とは② 児童福祉施設について調べ、グループごとに発表することを通して、児童福祉施設の役割・機能、特性を理解する。（目標2, 3）</p> <p>第4回：実習日誌について① 実習生にとって実習日誌を書く意義を理解し、実習日誌に書く内容、日誌を書くための記録の取り方や記述の仕方等を学ぶ。（目標1, 4）</p> <p>第5回：実習日誌について② 子ども理解を起点とする保育実践を経験するため、実際に子どもと関わり、省察し、エピソード記録を作成する。そして、エピソード記録を読みあい、コメントしあうことを通して、環境構成の工夫について議論する。（目標4）</p> <p>第6回：実習の内容と実習課題について 実習課題を立てる意義について学ぶ。実習で学ぶべき事柄について学び、そこから自らの実習課題を立てる。（目標1, 2）</p> <p>第7回：事前訪問（事前オリエンテーション）と自己課題について 実習施設での事前打ち合わせに臨む際の手続きや注意事項について説明を受け、報告書の内容から確認する。また、実習に臨むにあたっての自己課題と日々の実習の目標（課題）との関係について</p>					

	<p>理解する。(目標1, 4)</p> <p>第8回: 保育者に望まれる資質、名札の製作について 子どもにとっての保育者の存在について理解し、保育者としての望ましい資質について議論する。 また、子どもの視点に立って考えながら、実習で使用する名札を製作する。(目標2, 3)</p> <p>第9回: 実習日誌について③ 実習日誌を書く意義についての理解を踏まえて、時系列記録の書き方の基本を学ぶ。(目標4)</p> <p>第10回: 実習日誌について④ 実習日誌を書く意義についての理解を踏まえて、映像記録を見ながら時系列記録を作成する。作成した記録を互いに読みあい、コメントをしあう中で、他者に伝わる記述の仕方等を学ぶ。(目標4)</p> <p>第11回: 模擬保育 部分実習に向けて、「紙芝居」「絵本」の模擬保育を行う。グループで実践を行い、コメントしあうことを通して、子どもの興味・関心、発達を捉え、子どもの育ちを支える保育実践について理解を深める。(目標4)</p> <p>第12回: 指導計画について① 実習にとっての指導案の意義や目的を理解し、指導案の立て方について具体的に学ぶ。第12回で行った模擬保育の振り返りを踏まえて、指導計画を作成する。(目標4)</p> <p>第13回: 実習生としての心構え 実習に臨むにあたって、実習生として守るべきことを確認する。また、全国保育士倫理綱領や守秘義務、こども性暴力防止法について学び、子どもの人権を尊重する保育者の役割と子どもへの関わり方について理解を深める。(目標2, 3)</p> <p>第14回: 実習直前指導 保育実習に臨むにあたり、直前の準備等のチェック、実習施設の評価、実習中・実習後の手続き、連絡方法、お礼状の書き方等についての説明を受け、確認する。(目標1, 2, 3, 4)</p> <p>第15回: 事後指導 実習を振り返り、実習の自己評価を行い実習での学びを確かなものにするるとともに、今後の学修や学生生活等での自己課題や目標を明確にする。(目標5)</p> <p>定期試験</p>
授業外学修時間の確保について	<p>(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。)</p> <p>事前学習: 配布資料の確認、前回の講義内容の復習、提示する課題の作成等。理解不十分なことは次の授業で質問をすること。</p> <p>事後学習: 講義内容の復習、振り返り・課題やレポート作成等</p>
学生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験40%、実技試験10%、小テスト10%、提出物10%、実技課題10%、グループワーク・授業への貢献度10%、実習報告書10%で評価する。 ・60%以上を合格とする。 ・なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。 ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。
テキスト	『保育所保育指針解説』 厚生労働省 フレーベル館
参考書・参考資料等	『新版遊びの指導一乳・幼児編一』 公益財団法人 幼少年教育研究所(編) 同文書院 参考資料等: 毎回の授業で配布する
担当者からのメッセージ	実習において学びを深めるため、授業への意欲的な取り組みを期待します。 止むを得ない理由で欠席する場合は前もって授業者に連絡し、後日必ず補講を受けに来るようにすること。
オフィスアワー	毎週 金曜日 9:05~10:35 (メール等でアポイントを取る)
備考	